

2025/1/14 (火)

朝の礼拝

聖書 マタイによる福音書 7章 13-14節 (新約聖書 11頁)

イエスが道に出て行かれると、ある人が走り寄り、ひざまずいて尋ねた。「善い先生、永遠の命を受け継ぐには、何をすればよいでしょうか。」イエスは言われた。「なぜ私を『善い』と言うのか。神おひとりのほかに善い者は誰もいない。『殺すな、姦淫するな、盗むな、偽証するな、奪い取るな、父と母を敬え』という戒めをあなたは知っているはずだ。」するとその人は、「先生、そういうことはみな、少年の頃から守ってきました」と言った。イエスは彼を見つめ、慈しんで言われた。「あなたに欠けているものが一つある。行って持っている物を売り払い、貧しい人々に与えなさい。そうすれば、天に宝を積むことになる。それから、私に従いなさい。」彼はこの言葉に顔を曇らせ、悩みつつ立ち去った。たくさんの財産を持っていたからである。

慈しみ

聖書にはお金、家、土地など財産に関する話がよくあります。現代は「生産調整」「株式」など高度に発達した経済が世界を包んでいますが、それと比べると聖書の時代はあるものを奪い合う単純な世界です。ただ時代がどんなに進歩しても「人間の欲望」は変わりません。

つまりきれい事を言っても肝心なのは人の心、行いです。今日のお話のお金持ちは幼い頃から十戒の戒めを学び、守ってきた正しい人です。そして財産もある成功者、勝ち組です。これほど神様に祝福されている人はいません。でも彼は「自分のこと」しか考えていません。

イエスは彼を見つめ、慈しんで「あなたに欠けているものが一つある。行って持っている物を売り払い、貧しい人々に与えなさい。そうすれば、

天に宝を積むことになる。それから、私に従いなさい。」と言われました。彼にとって「貧しい人々」が本当の財産だったので。

残念ながらこの金持ちは顔を曇らせて、悩みながら立ち去ります。実はイエスの招きを拒んだのは、聖書ではここだけです。財産は悪くない、ただ人の心は惑わされる。どんな正しい人も自分のことしか考えなくなる。それでもイエスは自分のことしか愛せない者でも慈しむのです。

(しばらく黙祷しましょう)

慈しみ深い主よ、恵まれた環境に生まれ、幼い頃から正しく育てられ、財産にも恵まれた人が、なぜあなたに救いを求めてきたのでしょうか。どんなに正しくても、豊かになっても、どうしてわたしたちは自分のことだけを考え、行動してしまうのでしょうか。どうかわたしたちを互いに愛し合う喜びへと導いてください。いまでも続く愚かな争いが終わりますように、災害で住まいを失った人びとに必要なものが備えられますように、病にある方々にいやしを、そして学校に来ることが困難な友だちに慰めと励ましを与え、共に喜びと感謝を献げられますように。今日一日も、すべてをあなたに委ね、よき学びのうちに過ごさせてください。主イエス・キリストによってお願いいたします。アーメン